

熱中症

暑さを避ける

- 外出時には・・・  
▼日傘や帽子の着用
- 日陰の利用、こまめな休憩
- 天気のよい日は、日中さるだけ控える



着用する  
を冷やす

る暑さの指数  
からっています。  
サイト)に、観測値と予想

水分を補給す

渴きを感じなくても  
水液\*などを補給する

に長くいることで、徐々に  
機能がうまく働かなくなったり  
でなく室内で何もしてい  
よっては死亡することもある  
知識を身につけ、体調の変

化症による健康被害を防ぎ

立ちくらみ、手足のしびり  
き気、嘔吐、倦怠感、  
がおかしい、意識消失、  
ください。

は、厚生労働省ホームページ「

# 「合理的配慮」を 知っていますか？

障害者差別解消法<sup>(注)</sup>により、障害のある方への  
「合理的配慮」などが求められています！！

(注)正式名称は「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」で、  
平成28年4月1日からスタートしています。



## 愛の鞭をやめて、 子どもを健やかに育みましょう。

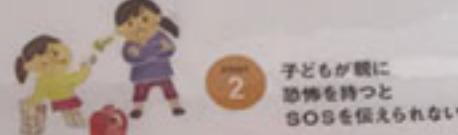
子育てにおいて、しつけを極めて、何いだけがもつたれることは、  
子どもの成長の助けにならないばかりか、悪影響を及ぼしてしまう可能性があります。

### 1 子育てに 体罰や暴言を使わない

一方、体罰や暴言には効果があるように見えますが、多くのことによって育られた子どもの心は、叩かれた恐怖によって行動したく、自分で決断したくありません。

「愛の鞭である」と思が思っても、子どもにとつて大人から叩かれることはとても怖いことです。ちょっと叩かれただけでも、心に大きなダメージを受けることもあります。

子どもだからといって、暴力や暴言が許されるわけではありません。それに体罰や暴言は【虐待】へとスケールする可能性もあります。「殴かない・叩かない・口論しない」と心に決めましょう。



### 2 子どもが親に 恐怖を持つと SOSを伝えられない

特に恐怖を持った子どもはどのような行動を起こすでしょう。特に間に入れるよう

に、他の恐怖を見て行動するようになります。

また、恐怖を持つ際には、子どもが心配事を打ち明けられなくなります。心配事を相談できないといじめや虐待など、より大きな問題に陥ってしまう可能性もあります。

### 3 煙突寸前の イライラをクールダウン

子どもが言ふことを聞いてくれないときに、イライラすることは誰でもあること。でも、疲れたりして、もともと抱えているストレスが大きいと、子どものちょっとした行動（おしゃべりの取り合ひ、すぐに驚かないとなど）をきっかけに、イライラが爆発してしまうことがあります。



イライラしたときはクールダウン  
運動をすると、頭を休める。  
頭を休めると、集中力もまとまる

### 4 親自身がSOSを出す

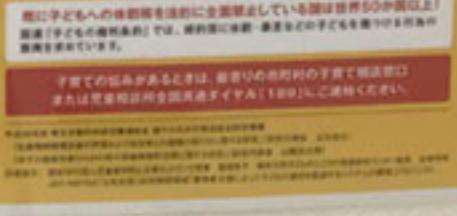
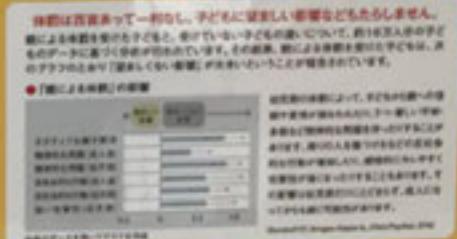
育児の負担を一人で抱え込まない、家族で分担してもらったり、育児休育やNPO、企業などのさまざまな支援サービス（ファミリーサポート、事業代行サービス、一時預かりなど）の利用も検討しましょう。子育ての苦労について気軽に相談できる夫婦ができるといいですね。

### 5 子どもの気持ちと行動を 分けて考え、育ちを応援

子どもに「イヤだ！」と言ふたとき、親自身が戸惑うこともあるでしょう。でも、立った子どもの「イヤ」は、自分の意思であり、成績の話でもあります。「どうしたらいつかな？」と、子どもの考え方を引き出し、必要な時に即座に応援しながら、子どもの想いを尊重しましょう。



「わざまなきになつては困る」という想いから、親の親的に対応してしまうこともあります。子どもの成長過程で必ず進む風呂た大らかに想えて、子どもの意見を尊重していましょう。



## 子どもを健やかに育むために ～愛の鞭ゼロ作戦～

子育てをしていると、子どもが愛しい影響などもたらしません。  
親による体罰をやめた子どもと、受けている子どもの心について、西日本在住の子ど  
ものデータに基づいて分析されています。その結果、親による体罰をやめた子どもは、其  
のデータより「愛をもつている」傾向が大きいことがわかりました。  
●「愛による体罰」の特徴  
親による体罰について、子どもが受けた体  
罰が減らされたことで、子供の心の健康  
や親の心の健康に対する影響が減らす  
うな結果が得られています。また、親の心  
の健康が改善されると同時に、子供の心  
の健康も改善されることが示されています。  
●「愛による体罰」の特徴  
親による体罰について、子どもが受けた体  
罰が減らされたことで、子供の心の健康  
や親の心の健康に対する影響が減らす  
うな結果が得られています。また、親の心  
の健康が改善されると同時に、子供の心  
の健康も改善されることが示されています。

ついで、早い段階からやめることもありますよ。  
一見、体罰や暴言は家庭があるようでよいですが、  
恐怖に対する子どもたちの反応が悪いことがあります。  
なぜなら、恐怖に対する子どもたちの反応が悪いことがあります。  
親は「愛の鞭」のやめ方で、いつの間に  
「虐待」へとスケールしてしまったりもします。  
虐待や暴言には「愛の鞭」は使わないでください。  
そして、子どもの気持ちに即してやめ、  
みんなで笑顔に運んでいきましょう。

## 指定障害児通所支援事業用「ハッピーテラス水前寺教室」

### ハッピーテラス水前寺教室 問い合わせ

受付担当者 佐藤 大理 TEL 066-277-1167

解決責任者 佐藤 山田 馬久 TEL 066-277-1167

### 市区町村のサービス相談・苦情受付窓口

市役所窓口 市役所窓口  
担当部署 保健福祉課・児童支援部 保健福祉課  
電話番号 090-328-2519  
所在地 佐木原本町中央区手取町1番1号

\*市役所に直接問い合わせるのは困難な場合は窓口に相談ください。

### そのほかのサービス相談・口頭受付窓口

窗口名 佐木原サービス運営促進委員会  
電話番号 090-324-5471  
受付時間 毎週月曜日～金曜日 午前9時～午後5時  
(土曜・日曜・祝日・年末年始は休む)

### 虐待防止に関する相談窓口

当事業者は、利用者の人権保護、虐待防止のため、被虐者を  
対象とする専らの組織の要請を行うとともに、職員に対し、  
研修を実施する等の対策を講じます。

①虐待防止に関する責任者の選定

②苦情解決体制の整備

③職員に対する虐待防止の研修・普及の為の研修の実施

虐待防止責任者 山田 馬久

# 指定障害児通所支援事業所「ハッピーテラス水前寺教室」

## ハッピーテラス水前寺教室 苦情受付

受付担当者 名前 大澤 美穂  
TEL 096-277-1167

解決責任者 名前 山田 晃久  
TEL 096-277-1167

## 市区町村のサービス相談・苦情受付窓口

市区町村名 熊本市役所  
担当部署 健康福祉障がい者支援部 障がい保健福祉課  
電話番号 096-328-2519  
所在地 熊本県熊本市中央区手取本町1番1号

★熊本市にお住まいではない方はお住まいの市区町村にご相談ください

## そのほかのサービス相談・口調受付窓口

窓口名 熊本県福祉サービス運営適正化委員会  
電話番号 096-324-5471  
受付時間 毎週月曜日～金曜日 午前9時～午後5時  
(土曜・日曜・祝日・年末年始は休み)

## 虐待防止に関する相談窓口

当事業所は、利用者の人権擁護、虐待防止のため、責任者を設置する等の必要な体制の整備を行うとともに、職員に対し、研修を実施する等の以下の措置を講じます。

- ①虐待防止に関する責任者の選定
- ②苦情解決体制の整備
- ③職員に対する虐待防止の啓発・普及の為の研修の実施

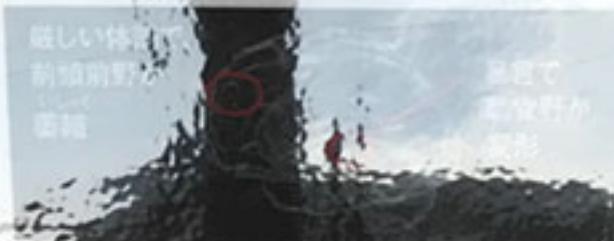
虐待防止責任者

山田 晃久

## 体罰・暴言は子どもの脳の発達に深刻な影響を及ぼします。

脳画像の研究により、子ども時代に辛い体験をした人は、脳に様々な変化を生じていることが報告されています。親は「愛の鞭」のつもりだったとしても、子どもには目に見えないダメージを与えていたりするのです。

### 子ども時代の辛い体験により傷つく脳



提供：福井大学 友田明美教授

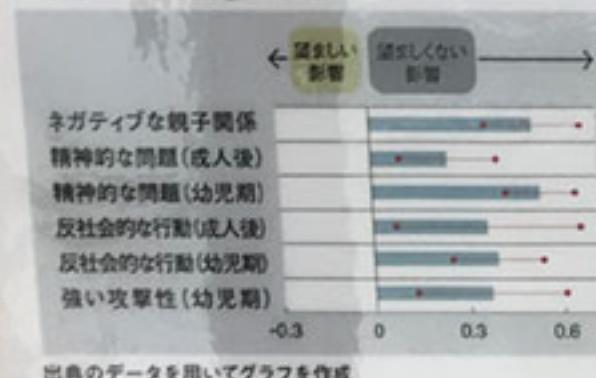
・最も深い体験により、前頭前野（社会生活に係る主要な脳部位）の容積が  
19.1%減少  
(Tomoda A et al., *NeuroImage*, 2009)

・暴力により、聴覚野（声や音を知覚する脳部位）が変形  
(Tobin J et al., *NeuroImage*, 2011)

## 体罰は百害あって一利なし。子どもに望ましい影響などもたらしません。

親による体罰を受けた子どもと、受けていない子どもの違いについて、約16万人分の子どものデータに基づく分析が行われています。その結果、親による体罰を受けた子どもは、次のグラフのとおり「望ましくない影響」が大きいということが報告されています。

### ●「親による体罰」の影響



出典のデータを用いてグラフを作成

幼児期の体罰によって、子どもから親への信頼や愛情が損なわれたり、うつ・著しい不安・多動など精神的な問題を持ったりすることがあります。周りの人を傷つけるなどの反社会的な行動が増加したり、感情的にキレやすく攻撃性が強くなったりすることもあります。その影響は幼児期だけにとどまらず、成人になってからも続く可能性があります。

(Gershoff ET, Grogan-Kaylor A, J Fam Psychol. 2016)

## 既に子どもへの体罰等を法的に全面禁止している国は世界50か国以上!

国連「子どもの権利条約」では、締約国に体罰・暴言などの子どもを傷つける行為の撤廃を求めています。

子育ての悩みがあるときは、最寄りの市町村の子育て相談窓口  
または児童相談所全国共通ダイヤル「189」にご連絡ください。

平成28年度 厚生労働科学研究費補助金「健やか次世代育成総合研究事業

「妊娠婦健康診査の評価および自治体との連携の在り方に関する研究」(研究代表者 立花良之)

「母子の健康改善のための母子保健情報利活用に関する研究」(研究代表者 山縣浩太朗)

小委協力：特定NPO法人児童虐待防止全国ネットワーク理事 高橋常子 / 福井大学子どものこころの発達研究センター教授 友田明美

JST/RISTEX「公私空間」研究開発領域「養育者支援によって子どもの虐待を低減するシステムの構築」プロジェクト



## 子どもを健やかに育むために ～愛の鞭ゼロ作戦～

子育てをしていると、  
子どもが言うことを聞いてくれなくて、  
イライラすることもあります。  
つい、叩いたり怒鳴ったりしたくなることもありますよね。  
一見、体罰や暴言には効果があるように見えますが、  
恐怖により子どもをコントロールしているだけで、  
なぜ叱られたのか子どもが理解できていないこともあります。  
最初は「愛の鞭」のつもりでも、いつの間にか  
「虐待」へとエスカレートしてしまうこともあります。  
体罰や暴言による「愛の鞭」は捨ててしまいましょう。  
そして、子どもの気持ちに寄り添いながら、  
みんなで前向きに育んでいきましょう。

# 愛の鞭をやめて、子どもを健やかに育みましょう。

子育てにおいて、しつけと称して、叩いたり怒鳴ったりすることは、子どもの成長の助けにならないばかりか、悪影響を及ぼしてしまう可能性があります。以下のポイントを心がけながら、子どもに向き合いましょう。

## POINT 1 子育てに体罰や暴言を使わない

一見、体罰や暴言には効果があるように見えますが、叩くことによって得られた子どもの姿は、叩かれた恐怖によって行動した姿。自分で考え行動した姿ではありません。

「愛の鞭である」と親が思っても、子どもにとつて大人から叩かれることはとても怖いことです。ちょっと叩かれただけ、怒鳴られただけでも、心に大きなダメージを受けることもあります。

子どもだからといって、暴力や暴言が許されるわけではありません。それに体罰や暴言は「虐待」へとエスカレートする可能性もあります。「叩かない怒鳴らない」と心に決めましょう。



## POINT 2 子どもが親に恐怖を持つとSOSを伝えられない

親に恐怖を持った子どもはどのような行動を起こすでしょうか。親に気に入られるように、親の顔色を見て行動するようになります。

また、恐怖を持つ親に対しては、子どもが心配事を打ち明けられなくなります。心配事を相談できないと、いじめや非行など、より大きな問題に発展してしまう可能性もあります。



## POINT 3 爆発寸前のイライラをクールダウン

子どもが言うことを聞いてくれないときに、イライラすることは誰でもあること。でも、疲れたりして、もともと抱えているストレス度が大きいと、子どものちょっとした行動（おもちゃの取り合い、すぐに動かないなど）をきっかけに、イライラが爆発してしまうことがあります。

イライラが爆発する前に、クールダウンするための、自分なりの方法を見つけておきましょう。



イライラしたときはクールダウン  
深呼吸する、数を数える、窓を開けて風に当たるなど



## POINT 4 親自身がSOSを出そう

育児の負担を一人で抱え込まずに、家族に分担してもらったり、自治体やNPO、企業などのさまざまな支援サービス（ファミリーサポート、家事代行サービス、一時預かりなど）の利用も検討しましょう。子育ての苦労について気軽に相談できる友だちもできるといいですね。

## POINT 5 子どもの気持ちと行動を分けて考え、育ちを応援

子どもに「イヤだ！」と言われたとき、親自身が戸惑うこともあるでしょう。でも、2、3歳の子どもの「イヤ」は、自我の芽生えであり、成長の証しでもあります。「どうしたらいいかな？」と、子どもの考えを引き出し、必要に応じて助け船を出しながら、子どもの言い分を気長に聞きましょう。

「わがままな子になっては困る」という想いから、親は指示的に対応してしまうこともありますが、子どもの成長過程で必ず通る道だと大らかに構えて、子どもの意思を後押していきましょう。

